

## 第七講 シュメール人の歴史

初期王朝期第二期 (2700-2500 年ころ)

城壁の一般化

覇権をめぐる都市間の抗争→同盟の結成

キシユの覇権 (有力都市の出現)

エンメバラゲシの实在

『ギルガメシュ神話』(古バビロニア時代)

アッシュール・バニパルの大図書館

12 話、約 3500 行

1867 年、シドニー・スミスの解読

洪水伝説 (第 11 話)

ギルガメシュ (ウルクの王) の暴政

エンキドゥとの争い

フンババ退治

エンキドゥの死

永遠の命を求めて→ウトナピシュティム (キシユの王)

ギルガメシュとアツガ

『シュメール王名表』(イシン・ラルサ時代の前 19 世紀)

ウルク第 1 王朝

第 2 代 エンメルカル 「ウルクを建設したウルクの王」

第 3 代 ルーガルバンダ 1,200 年

第 5 代 ギルガメシュ 126 年

↓

实在

エリドゥ→シッパル→シュルパーク・・・洪水：8代 24 万 1200 年  
キシユ (22 代目のエンメバラゲシ→アツガ) →ウルク→ウル (メスアンネパッタ→メスキアグヌンナ→エルル→バルル)・・・  
エンメバラゲシの名前を記した同時代の壺

メスアンネパッダの名前を記した印章  
同時代の史料によってその実在が証明  
キシユの覇権→「キシユ王」の称号を覇者が名乗るようになる  
有力都市国家間の争い→疲弊  
末期ノシュルツパーク文書

ensí

guruš の大部隊 680 名、戦場へ出動

戦車の修理

都市同盟（ウルク・ニツプール・シュルツパーク・  
ラガシュ・ウンマ）

同盟軍 733 名 max アダブ 215 名

min シュルツパーク 66 名

初期王朝期第三期（2500～2350 年ころ）

ラガシュとウンマの 9 代に亘る争い（シュメール都市国家間の関係  
をよく示している）

国境の土地と水路をめぐる対立

史料：Eannatum の丸石碑文

Entemena の円錐碑文

ウル・ナンシエ朝

ウル・ナンシエ 王朝創設

ウンマと国境地帯の耕地をめぐる争い

キシユの王、メシリムの調停

アクルガル 外敵（エラム人？）の侵入→国土の相当部  
分を破壊される

エアンナトゥム（1）ギルスの復興

ニーナを造営

（2）エラム遠征

（3）ウンマのエンシ、ウシュ、メシリムの調停

破棄→ラガシュに侵入→撃破→ウンマを  
攻撃

ウンマのエンシ、エンアカルレと講和

グ・エディンナを奪回

賠償 大麦 14万4千大グル(1万7424kl)

国境を画定

(4) ウルク・ウル・キワトゥ・ウルアズを攻撃  
ミシメを略奪

(5) アクシャクのズズが反ラガシュ同盟結成  
アクシャク・エラム・シュブル・ウル  
ア／キシユ・マリ

反ラガシュ同盟軍の侵攻→ニンギルス  
のアンタスツラ神殿付近で撃破

エラム人を撃破・アクシャク軍を撃破

アスフルを基地にエラム・シュブル・ウル  
アを攻撃

アンタスツラを基地にキシユ・アクシャ  
ク・マリを攻撃

↓

ズズ滅亡

「キシユの王」を名乗る

(6) ルンマギムドゥクの貯水池を建設

諸神殿の造営

エンアンナトゥム

ウンマ、賠償義務の不履行

ウンマのエンシ、ウルルンマ

講和条約破棄

境界線破棄

反ラガシュ同盟結成

ラガシュ侵攻 (戦車 60 台を随伴)

ウギカ農場で決戦

エンアンナトゥム戦死

エンテメナ

ウンマ軍撃破

ウンマ軍をウンマまで追撃  
ウルルンマ戦死  
ウンマのエンシ、イルと講和  
境界線：ニンギルス及びナンシエ  
の水路  
賠償金  
ウンマの不履行  
ティグリス川からイド・ヌン運河まで  
水路建設→戦争回避  
ナムヌンダキガッラ神殿造営  
ウルクのエンシ、ルーガル・シェドゥ  
ドゥと兄弟の契り  
エンナンナトゥム 2 世 ウル・ナンシエ朝の衰退～滅亡  
エンエンタルジ ニンマル神のサング出身  
ルーガルアンダ 神殿領を王領地に編入（名前だけ）  
ウルカギナ（ウルイニムギナ）改革断行→国家再建の目論見  
略奪された神殿領は旧状に帰す  
弱者圧迫の禁止  
収税吏による圧迫禁止  
↓  
農民軍の回復を試みる  
治世 4 年 ウンマのルーガルザギシと  
の争いに敗れる  
ラガシュ全土の破壊